

陸前高田市

陸前高田市の被害状況

最大震度
6(推定)浸水面積
13km²最大浸水深
18.34m全壊
3,807棟半壊
240棟一部損壊
3,988棟死者
1,606人行方不明者
202人負傷者
不明

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.1下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

津波の破壊力をまざまざと感じる

●たびつくよんじゅうご(きゅうみちのえきたかたまつばら)

タピック45(旧道の駅高田松原)

津

波の脅威を物語る旧道の駅が高田松原津波復興祈念公園(P.47)に震災遺構として整備、公開されています。構内の見学時は高田松原津波復興祈念公園パークガイド(有料、要予約)の利用が必要。

津波のエネルギーを逃がす建物の形状により、外観に大きな損傷は見られませんが、構内に足を踏み入れると様子が一变します。壁、天井、床が破壊され、中に入った物はほぼ流出。風や揺れなどに強いとされる「耐力壁」さえ崩されていることから、津波のすさまじい破壊力が見て取れます。

構内にはこの建物の屋上へ避難し、九死に一生を得た3人の体験談を伝える看板もあります。もし次に津波が来た時は、東日本大震災で助かったことを理由に同様の行動をするべきなのか。それとも近くにより高い場所があれば、そこへ避難するべきなのか。自分の身に置き換え、深く考えさせられます。



津波の圧力を強く受け、大きく損傷した建物の内部。壁や天井が破損し散乱しているが、できるだけ震災当時のまま、保存している。国道側にあったという増築部分も、津波により根こそぎ消えてしまった



建物は海側からの上りやすさを考慮したデザイン。震災時、津波は屋上のすぐ下、14.5mまで迫っていた。このような震災当時の話も、地元住民が案内役を務めるパークガイドから聞くことができる



構内には津波が押し寄せている瞬間の写真パネルや、この建物の屋上に命からがら避難した3人の心情を伝える看板などを設置。構内の状況と照らし合わせながら読むと、震災当時をより理解できる

?

?

考えてみよう

Q1

コンクリートの建物に見られる構造で、風や揺れなどの衝撃に強い壁「耐力壁」も、震災時の津波の威力にはかなわず、無残にも破壊されました。構内の耐力壁を見ると、津波が来た海側に向かって倒れています。これはどういうことを意味しているのでしょうか？

A1 押し波ではなく、引き波によって倒された。引き波も押し波と同じように威力が強いことを表している。

震災遺構

施設ガイド

車椅子OK

※要予約

施設DATA

●たびつくよんじゅうご(きゅうみちのえきたかたまつばら)

タピック45(旧道の駅高田松原)

☎090-7528-8182(高田松原津波復興祈念公園パークガイド受付事務局)
MAP P114D1

⑤陸前高田市高田町古川28-5

③三陸沿岸道路陸前高田ICから車で5分

👁️🗨️欄の外から見学自由(構内を見学する場合は高田松原津波復興祈念公園パークガイドの利用が必要)
🕒9時~17時30分※日没の早い冬期は早まる場合あり

📄有料※ホームページで要確認)

📍あり(大型バス:あり)

https://takanavi.org/shinsai



注①出典:岩手県東日本大震災津波の記録,平成25年3月,岩手県